

代表機関：東海国立大学機構 名古屋大学

課題名：

## All Japan 大規模レジストリデータを背景とした間質性肺炎の治療プログラム及びデバイスの開発

分担機関：株式会社コスミックエムイー、国立研究開発法人理化学研究所、名古屋工業大学

研究期間：令和4年6月～令和7年3月

## 研究目的・内容

- 間質性肺炎は進行性に悪化する肺疾患であり、早期診断と病状モニタリングを可能とするAIソフトウェア医療機器(SaMD)の開発が必要である。
- 早期診断と予後・治療効果を予測することで最適な診断・治療を提案するSaMDの開発と、患者の日常状態モニタリングと適切な呼吸器リハビリテーションの提案を通じて、病状の早期発見と個別化された治療提案を実現する。

## 取り組み・成果

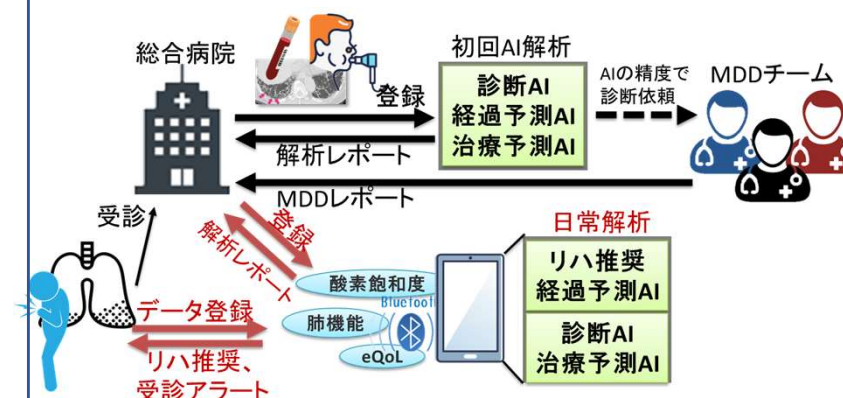
- 間質性肺炎の大規模レジストリデータの確立とAIモデル検証が世界最大規模で行われ、その質と精度を確認した。
- 間質性肺炎の診断・予後予測システムの構築と呼吸器リハビリテーション提案システムの開発が進行した。AIによる解析と提案システムが具体化した。
- 事業化に向けたビジネス戦略を策定し、社会実装に向けて活動中。

## 今後の展開

- 予後予測と疾患進行予測モデルの汎化能力を向上させる。治療選択アルゴリズムの妥当性を検証する。
- 呼吸器リハビリテーション提案システムと医療機器システムの開発を進め、規制当局の要求に適応した製品開発と事業化を行う。

クラス分類：クラスⅢ

## サービス・パッケージ概要



## 事務局・患者・主治医が使用する画面

